

| ナンバリング | 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配当年学期 | 単位数 |
|---------------------------|---|----------------------|---------------------------|--------|-----|
| 122AH07 | 文学 B | 「真珠湾攻撃」と「玉音放送」の日の文学者 | 玉置 文弥 | 1 年次後期 | 2 |
| 科目区分 | 基礎 | キーワード | 太平洋戦争、真珠湾攻撃、敗戦の日、熱狂、文学者 | | |
| ディプロマポリシーとの対応 | 1. 時代や社会の要請に対応できる能力 | | | | |
| カリキュラムポリシーとの対応 | 1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける | | | | |
| 事前に受講するとよい科目 | 文学 A | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 | | | | |
| 教員への連絡方法 | 教員の短大メールアドレス | | | | |
| 講義の目的 | 1941 年 12 月 8 日から 1945 年 8 月 15 日（降伏文書への調印は 9 月 2 日）にわたって続いた太平洋戦争のことは、皆さん知っているかと思います。しかし一方で、その時の日本人たちが何を考え、何を感じていたのかは意外と知られていません。本講義では、4 年近くに及ぶ大戦争の「始まり」と「終わり」つまり「真珠湾攻撃」の日と「玉音放送」の日に注目し、その両日に日本の文学者たちがそれぞれどのように考えたかを解き明かしていきます。そのことを通して、そして「文学と戦争」というテーマに迫ることを目的とします。 | | | | |
| 到達目標 | 本講義では、太平洋戦争の始まりと終わりの日（「真珠湾攻撃」と「玉音放送」の日）において、著名な文学者たちがつづった日記を中心に扱います。それらを読解することで、その内容や構造がどのようなものなのかを理解し、太平洋戦争とはどのようなものであったか、そして「文学と戦争」の関わりについて、自分の意見・感想を持ち、内在的に考えることができるようになることを目標とします。また文学者の日記を読む経験も味わってください。 | | | | |
| 講義内容 | 以下の講義スケジュールに挙げた著名文学者 11 人の、「真珠湾攻撃」と「玉音放送」の日の日記の読解と、その人物像、さらには時代背景についての解説を中心に進めます。本講義では文学者の「作品」ではなく、私的な「日記」を読みますので、それぞれの違う一面が見えてくるとと思います。その時代に自分自身が生きていたらどうだっただろうか、ということの内在的に考えるヒントにしてほしいと思います。 | | | | |
| 講義スケジュール | | タイトル | 内容 | | |
| | 第 1 講 | ガイダンス | 講義の全体像・ねらい・評価方法の説明と質疑応答 | | |
| | 第 2 講 | 「太平洋戦争」とはなにか？ | 太平洋戦争の全体像について考察・解説 | | |
| | 第 3 講 | 真珠湾攻撃の日の文学者①太宰治 | 太宰治の人物像と日記の読解・解説 | | |
| | 第 4 講 | 真珠湾攻撃の日の文学者②中島敦 | 中島敦の人物像と日記の読解・解説 | | |
| | 第 5 講 | 真珠湾攻撃の日の文学者③坂口安吾 | 坂口安吾の人物像と日記の読解・解説 | | |
| | 第 6 講 | 真珠湾攻撃の日の文学者④新美南吉 | 新美南吉の人物像と日記の読解・解説 | | |
| | 第 7 講 | 真珠湾攻撃の日の文学者⑤竹内好 | 竹内好の人物像と日記の読解・解説 | | |
| | 第 8 講 | 真珠湾攻撃の日の文学者⑥井伏鱒二 | 井伏鱒二の人物像と日記の読解・解説 | | |
| | 第 9 講 | 玉音放送の日の文学者①武者小路実篤 | 武者小路実篤の人物像と日記の読解・解説 | | |
| | 第 10 講 | 玉音放送の文学者②内田百閒 | 内田百閒の人物像と日記の読解・解説 | | |
| | 第 11 講 | 玉音放送の日の文学者③斎藤茂吉 | 斎藤茂吉の人物像と日記の読解・解説 | | |
| | 第 12 講 | 玉音放送の日の文学者④大佛次郎 | 大佛次郎の人物像と日記の読解・解説 | | |
| | 第 13 講 | 玉音放送の日の文学者⑤谷崎潤一郎 | 谷崎潤一郎の人物像と日記の読解・解説 | | |
| | 第 14 講 | 真珠湾攻撃と玉音放送の日の文学者たち | 文学者たちは「戦争」をどうとらえたかについての考察 | | |
| 第 15 講 | まとめ | 全回の振り返り | | | |
| 指導方法 | 基本的には講義形式で行います。ただし、ただし、授業内・外で自分の考察・感想を書く機会や質問に答える機会があります。 | | | | |
| 事前学習 | 毎回の講義で、講読する文章と箇所、および読解ポイントを示しますので、その点を中心に必ず事前に読んできてください。1 時間 30 分程度の学習時間を目安とします。 | | | | |
| 事後学習 | 講義内容を振り返るために、講義ノートやレジュメ、配布テキストなどを読み直してください。1 時間 30 分程度の学習時間を目安とします。 | | | | |
| 成績評価方法 | 本試験（レポート）50%、平常点（授業内レポート）50% | | | | |
| 課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法 | 授業内において解説します。 | | | | |
| テキスト | 適宜読解するテキストを紙媒体もしくはデジタル資料などで配布します。 | | | | |
| 参考文献 | 講義内において解説します。 | | | | |
| 実務家教員による授業 | 教員 | 経歴 | | | |
| 特記事項 | 学生の興味・関心や進度に応じて、講義内容が前後したり内容が変更される場合があります。 | | | | |